

## 令和6年度第1回がんの集学的治療専門部会

2024/7/27 12時30分～13時45分@四国がんセンター新棟研修室①

### 議事録

#### 報告・協議事項

##### 1. トレーシングレポート、薬薬連携

松山赤十字病院 橋本先生 四国がんセンター 亀岡

###### ①トレーシングレポート

これまでの部会で進捗を報告していた県内統一トレーシングレポートが完成、4月より運用開始している。今後は活用していただき、適宜改定を加えていきたい。

→ ご意見があれば部会への連絡をお願いしたい。

###### ②薬薬連携

前回の部会で提案のあった薬薬連携のメーリングリストを作成した。5月より稼働開始し研修会の情報発信等で活用している。メーリングリストへの参加について、当院の情報系システム移行の関係があり募集期間が短かったことから、再度募集したいと考えている。

→ 再度募集をおこなうので、必要な先生は登録して活用していただきたい。

##### 2. 希少がんネットワーク、DCTについて

四国がんセンター 上月、仁科、青儀

###### ①希少がんネットワーク

愛媛県がん診療連携協議会参加施設間のネットワークを通じて情報共有し、対応可能な施設へのコンサルテーションをおこなうことの出来るメーリングリストを作成しており、約1年前から稼働している。対応困難な症例があったときに、どのような対応ができるか、情報共有に使用することを目的としているが、現時点では主に治験の情報や研修会などの案内に使用している。

→ 施設内での情報共有が大切であり、医師以外でも相談支援センターの方など、希少がん、難治がんに対応する機会のある方にもどんどん登録していただきたい。登録人数の制限は設けていない。

\* がん診療連携拠点病院の整備指針

⑥それぞれの特性に応じた診療等の提供体制 ア 希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介やコンサルテーションで対応すること。

#### ◆希少がんに関するセミナーのお知らせ 2件

・希少がん みんなで語り合おう第2回 GIST(消化管間質性腫瘍)セミナー in 四国

日時:2024年8月31日 13:30～15:30

患者会との交流会もあり

場所:四国がんセンター 暖だん ハイブリッド開催

国立がん研究センターとのコラボ企画で、定期的で開催している。昨年度は中皮腫セミナーが開催され今回は第2回目。患者会の参加もあるので、患者さんにも案内していただきたい。

<愛媛大学 薬師神先生>

・第2回 四国連携 Sarcoma Conference

日時:2024年9月25日 19:00~20:30

場所:四国4県中継施設とWEB配信

中四国の肉腫のネットワークと協同した勉強会の企画。がんプロのネットワークでは、メーリングリストの中に、各施設でどの希少がんを診ることができるといった情報まで追加していただきたいという意見があった。愛媛県でも検討していただきたい。

<質問>希少がんの定義とはなにか。

<四国がん 仁科>人口10万人あたり6例未満の「まれ」な「がん」という規定がある。

<愛媛大学 薬師神先生>ホームページに掲載されているので、みていただけるとよい。

→ 愛媛県のがん情報サイト「がんサポートサイトえひめ」において、各施設の診療情報を一括して掲載しており、その中に「希少がん」のコンテンツを追加することで準備をすすめている。各施設の先生方にも、原稿の依頼があれば協力をお願いしたい。

## ②DCT

医師主導治験でのDCTについて、地方にパートナー施設として連携している病院があれば、地方在住でも国立がん研究センターで実施している治験にオンラインで参加できる。パートナー施設として四国がんセンターが登録されたことから、参加可能なオンライン治験について、希少がんメーリングリストでも案内をおこなった。問い合わせたいことがあれば、希少がんメーリングリストを通じて相談していただいてもよい。

### ◆参加可能なオンライン治験の募集状況

・登録終了:TAZETTA試験(類上皮肉腫患者を対象としたEZH2阻害薬(E7438、Tazemetostat)の多施設共同第Ⅱ相医師主導治験)

・登録実施中:Perfume試験(BRAF融合遺伝子陽性の進行・再発の低悪性度神経膠腫または膵癌に対するビニメチニブの第Ⅱ相異種主導治験)

→ DCTのシステムについてはいろいろな検討がなされているので、何かあれば案内をさせていただきます。

## 3. 医科歯科連携WG設置について

四国がんセンター 古川

・周術期口腔機能管理(医科歯科連携)の現状について

愛媛県では、病院歯科でおこなっている周術期口腔機能管理は充実しているが、開業歯科医院における管理は他の充実している県と比較して差がある状況となっている。そのため、開業歯科医院での周術期口腔機能管理の推進が必要と考えられ、医科歯科連携ワーキンググループの設置

を提案した。

・開業歯科医院での算定数増加への問題点とワーキングでの検討事項

歯科側では、1 歯科医院あたりの紹介数が多くないため、患者への説明や保険算定が不慣れと  
いうことがある。そのため、2012 年に当院と愛媛県歯科医師会で作成しているマニュアルを更新し、  
なるべく簡単に発行できる関連の書式の作成を考えている。また病院から歯科医院に紹介する際、  
紹介状とあわせて患者毎に簡易的なマニュアルを同封し、開業歯科医院が困らないような対策も考  
えている。

病院側では、開業歯科医院の閉院などの情報不足や、かかりつけ歯科がない場合に紹介先が  
わからないということがある。そのため、連携歯科医院について一覧の表ではなく WEB で閲覧でき  
る“マップ”の作成を考えている。

・医科歯科連携ワーキングメンバーについて

現時点では歯科医師会の先生と当院の地域連携室副看護師長の参加がある。協議会参加施設  
から参加していただける方は、連絡をお願いしたい。

<愛媛大学 薬師神先生>医科歯科連携 WG 設置に関しては、愛媛大学医学部の口腔外科を加  
えた WG や協議をお考えいただきたい。

<四国がん 古川>今後、愛媛大学医学部の口腔外科とも協議していきたい。

→ 医科と歯科の連携については重要なところで、医科歯科連携ワーキングは、幹事会において、  
がんの集学的治療専門部会の中ですすめることが決まっている。今後の進捗は報告させていただ  
く。何かあれば古川まで連絡していただきたい。

#### 4. 診療報酬改定への対応について

住友別子病院 藤田先生

外来化学療法室の人員についての困りごとについて

外来化学療法室の看護師は、事前の問診やセルフケアなどすべての投与管理に関わっている  
が、人員整備という研究自体がこれまでにあまりなされてきていない。2012~2024 年頃に日本がん  
看護学会で発表された 700 施設ぐらいの大規模なアンケート調査が最終で、外来の人員は医療法  
で決まっている 30 対 1 という状況から変わっていない。2017 年頃には、愛媛県の拠点・推進病院  
14 施設で外来化学療法室における配置や病床数の状況調査をおこない、当院では一時的に人員  
が増えたがその後また減ることとなった。人員についての規定は、拠点病院の整備指針で常勤の  
看護師を 1 名以上配置すること、という記載があるが、それ以外には、外来腫瘍化学療法診療料 1  
の算定においても明確な人数の記載はない。

6 月の診療報酬改定で、更なる安全・安心な化学療法を提供するという観点から見直しがなされ  
増点になったが、皆さんが現状をどのように苦慮されているか、ご意見をいただきたい。

<四国がん 青儀>クオリティを高めようと思うと人員は多いにこしたことはないが、実態にあっ  
ていないところがあるので、実態調査をおこなってみることが必要かと思うがどうか。

<四国がん 仁科>全がん協の参加施設で 2019 年に計算をおこなったが、外来化学療法と入院  
化学療法では粗利が異なっている。クオリティを高めようすると赤字になるため、厚労省に算定を  
あげてほしいという提案をした。医師の診察前に薬剤師が介入するというところの点数についても  
増点となった。難しいところではあるが、本当はどのくらいの人数が適正なのかなど、現場の意見  
を出していくことは必要。

→ 厚労省の予算は決まっており、他との調整が難しいが、データを出して示さないことには伝わらないので、愛媛県で調査をおこない示していくことは、ひとつの方法かもしれない。

<松山赤十字病院>皮下注射が増えている割には待ち時間が長くなり件数も増えているため、患者さんの時間独占について注目して待ち時間の削減に向けて取り組んでいる。近隣の方は前日に採血に来ていただいて当日即診察をして朝の時間を有効に活用したり、件数が多いときには、別エリアの外来看護師や看護助手さんの応援を依頼している。今後は、機能別看護として、穿刺などの担当看護師を決めるようなところから患者さんの待ち時間を削減できないか、看護師の人数は増えないため、少ない人数でどう有効に外来化学療法室を運営するかという視点で取り組んでいる。他の施設の取組や患者さんの人数、看護師の人数など継続して教えてもらえるとよい。よいアイデアを教えていただきたい。

<住友別子病院 藤田>当院でも前日採血や何時間以内のレジメンはこの時間帯にというような取組みもおこなったうえで、やはりICIの導入や皮下注射で苦慮している。現場からの意見が大事ということがわかった。看護師には実態調査の提案をさせていただいたので、協力をお願いしたい。

<愛媛大学 薬師神先生>外来化学療法室は5時には終わらないと思うが、施設ごとにどのくらいの時間まで化学療法を実施しているのか。

<住友別子病院 藤田>2017年の調査でも終了時刻についてのデータはあるが、業務時間内に終了しているというのは難しい。当院もレジメンによって18時を過ぎることもあるが、定時を過ぎても化学療法をおこなう場合には、どういう形で医師にも残っていただくか取り決めをして、遅出などの勤務時間帯を工夫するようにしている。

<四国がん 橋田>時間内に終わることは難しい現状にあるが、がん化学療法委員会で先生方になるべく早くということ声を掛けしたり、長いレジメンであればこの時間帯までには入れて欲しいというお願いをすることがある。それでも長くなると19時を過ぎることもあるので、予測できる場合は、遅出対応をしたりしている。

<愛媛大学 薬師神先生>クオリティを考えるようなことを看護師さん達が沢山しているということをもとめて伝えた方がよい。

<四国がん 仁科>当院のがん化学療法委員会では、定時以降に化学療法をおこなった件数をグラフ化して毎回周知いただいている。医師の意識改革も必要で、そのためには愛媛県でデータを出せるとよい。皮下注射のことは全がん協でも今回の一番の危機感であった。現場で困っている意見はあげていくことが必要。

→ 愛媛県でデータを集める。がんの集学的治療専門部会でもサポートすることとする。

## 5. 愛媛県曝露調査について

四国がんセンター 青儀、橋田、松本

毎年1回実施している曝露調査を2024年2月末～3月頭に実施した。

これまで3～4年間継続して調査を実施しているが、確実に年度ごとによくなっていることがわかっていて、調査報告を学会発表していただける薬剤師の先生がいればお願いしたい。

## 6. がん薬物療法多職種チーム研修、その他の研修について

四国がんセンター 青儀、橋田、福島、松本

### ①実践から学ぶがん薬物療法多職種チーム研修

医師・看護師・薬剤師・MSW の多職種チームで、がん化学療法をおこなううえでの問題点を共有し、がん薬物療法を受ける患者を支援するためのチーム作りや副作用マネジメントを実現できるように学ぶ研修として、2022 年度から継続して実施している。今年度は 10/13-14 に、リーダーシップ研修を企画した。自己理解のための MBTI という方法を用いて、自分がチームの中でどのようなポジションなのか、どういったところでリーダーシップを発揮したらよいかを解析しながら学ぶところに力点をおいて、企画している。

→ 募集人数が少ないため、これまでの多職種チーム研修会に参加済みの方を優先しているが、案内するので活用していただきたい。

### ②がんサバイバーシップ教育プログラム

日本の医療者に向けたがんサバイバーシップ教育プログラムを3年間かけて開発している。がんサバイバーシップは範囲が広く、アピランスケアや就労支援以外にも、術後に身体活動が落ちていく方のフォローアップやチャイルドケアなど、多職種がかかわる。

今回の研修は愛媛県で最初に開催することを提案し、企画している。e-learning 受講後に、地域ではどういった問題点があるか、どういった対策を立てたらよいか、将来的な見通しはどうかなどの個人ワークをおこなう研修で、7月に第1回目を実施、10月5日に2回目を予定している。

→ 次年度以降も何等かの形で支援が得られるのであれば、継続して実施できるとよいと考えている。

### ③乳がん学会市民公開講座

9月に乳がん学会の地方会～新しい Cure&Care～、を主催する。2日目のシンポジウム兼市民公開講座「がんサバイバーシップケアについて話しましょう！」は、会員でなくても参加可能。医療者側の問題点などをプレゼン予定。

## 7. その他

### ①愛媛県がん診療連携セミナー

報告会后 15:30 より、愛媛大学の安岡先生から AYA、妊孕性温存事業についての講演。

### ②次回の専門部会について

候補日 2/6(木)、2/7(金)、2/13(木)、2/14(金)。

WEB 開催。議題の進捗についてなど連絡をする内容を予定する。

→意見等特になし。